

令和6年度 第2回太良町教育環境整備検討委員会会議録（要点筆記）

日 時 令和7年1月17日（金）14：00～15：50

場 所 太良町中央公民館 2階視聴覚室

出席者 委員 18名

高松委員、赤木委員、鶴田委員、大岡委員、合浦委員、大鋸寛委員、巨瀬委員、松本委員、西田委員、永淵委員、田崎委員、坂口和宏委員、佐藤委員、橋本委員、平井多良小校長、古川大浦小校長、武富多良中校長、岡大浦中校長

事務局 7名

岡教育長、與猶学校教育課長、西田社会教育課長、松本総務係長、石丸係員

欠席者 委員 3名 坂口久信委員、大鋸美里委員、山下委員

事務局 2名 福田学校教育係長、織田体育係長

1. 開会 與猶課長

2. 委員長挨拶

- ・太良町が合併70周年を迎える。データを見ると、合併当時の人口は15,800人であり、令和6年12月末では7,900人である。人口が半減しており、こういった状況下での検討となる。ご協議をよろしく願います。

3. 協議事項

(1) 太良町立小・中学校の将来の在り方に関するアンケート調査結果について

與猶課長：アンケート調査結果及び結果分析について説明

- ・アンケート調査結果及び分析について疑義はなし。ホームページ上で公表することを承認。

(質問・意見等)

● 「大人・高校生アンケート調査」の結果について

① 問10～問11 「学校の小規模化に伴う今後の対応」に関する調査結果について

赤木委員：アンケート結果を見ると、「現行のままでよい」という回答が多かったことに驚いている。

與猶課長：単独の回答では、確かに「現行のままでよい」が一番多かった。しかし、統合や小中一貫などの何らかの対応を行う方がいいと思う人が6割以上いる。

鶴田委員：：（太良町の）変化に対する危機感がないのか。場所や通学手段などを考えると様々な課題もあることから、「現行のままでよい」と回答したのではないか。

岡教育長：小中学校の授業を見ると、現在20人～35人の学級が多く、一人一人丁寧な指導を受けている状況がある。子供たちも落ち着いて授業を受けられる環境にある。保護者は40人学級を経験されてきたわけなので、その頃と比較して現状のままでよいと回答されたのではないか。

坂口和宏委員：保護者は通学の問題等十分に分からない状態で、今見える範囲での回答だったと思う。そう考えると、「現行のままでよい」を参考にするのは難しいと思う。

佐藤委員：私も今しかとらえていないと考える。10年先20年先を考えての回答ではないと思う。

西田委員：私の長子は小学1年生で、車がたくさん通る通学路を使用している。(統合によって)学校が遠くなれば心配なので、現行のままでいいと考えている。

永渕委員：私自身は「現行のままでよい」と回答した。山手に住んでいて、現段階ではスクールバスが自宅近くまで来るのか分からない状況から、そう回答した。通学の事が心配である。

平井委員：目の前の今の子供たちの課題があり、将来どんな子供たちに育てていくのが大切ではないか。保護者の方の気持ちがよく分かった。

②問12「中学校の部活動の方式」に関する調査結果について

(質問)

高松議長：各学校の部活動の状況はどうなっているのか。

(回答)

岡委員：現在、多良中、大浦中の生徒数が少ないので、合同で活動をしている部もある。例えば、女子バレー部は合同チームで活動している。大浦中では、剣道男子部とソフトテニス部が単独で活動をしている。サッカー部は0人だが、サッカーのクラブチームに参加している生徒は、3学年を合わせると、鹿島に10人、諫早に1人おり、合計11人はクラブチーム所属である。

文部科学省が部活動の地域移行を推進しているが、なかなか進まない。一番の課題は指導者がいない事である。

なお、本校ソフトテニス部は、顧問が来ない土曜日に部活動指導員に指導してもらっている。案外うまくいっているように思う。

武富委員：多良中の野球部は今の小学6年生が入部すれば、その子供たちが中学3年生になるまでは維持できると思う。指導者については、その専門の教員が赴任してくれば専門的な指導ができるが、現実として、教員に指導者の専門性を問うのは厳しい状況である。

坂口和宏委員：少年野球は、2月始動で道越少年、多良少年、吉田少年の3チーム合同となる予定である。ただ、指導者や監督が会社員なので、保護者もその一部を補う形となっている。

大鋸寛委員：太良町の小学生は、サッカー、野球、柔道、剣道、水泳など、社会体育として活動している。中学校では部活動になるが、中学校では小学校の社会体育をそのまま引き継ぐ形で地域移行ができればいいのではないかと考える。しかし、報酬の問題等がでてくると考える。現在、部活動を担う先生方の負担が大きい状況にある。

③アンケート調査結果(別紙1)及び結果分析(別紙2)の取り扱いについて

與猶課長：別紙 1、2 をホームページ上で公表したいが、問題はないか。問 13 については、個々の記述でもあることから、ホームページでの公表はしない予定。

高松委員長：全体的に見て、小学校は当面現状維持、中学校は将来合併した方がいいと感じた。

合浦委員：大浦校区と多良校区の回答の違いを事務局は分析・検討されたのか。

與猶課長：多良校区と大浦校区では若干の違いがある。どちらの校区も今が一番落ち着いているのではないかと感じている。

岡教育長：大浦校区は、子供の数が少なく、すべて 1 クラス。その状況に肯定的な保護者が多いのだと思う。

● 「小・中学生アンケート調査」の結果について

田崎委員：「問 6. これからの学校に望むこと」の「その他の内容」がおもしろいと思った。放課後の勉強会を開いて欲しいなど、勉強したい子や志の高い子が多いのかなと思った。

橋本委員：合併したとしても、1 クラス 20 人前後のゆとりのあるクラスで勉強したいのかなと感じた。

古川委員：現在、大浦小学校はどの学年も 1 学級しかない。「2 学級がいいですか」と聞いた時に 2 学級のイメージが浮かばなかったのではないかと感じた。子供の素直な気持ちが出ていると思う。

松本委員：1 学年 1 学級のクラスは、同じメンバーで 9 年間持ち上がるので、かわいそうだなと思う。2 学級になるとクラス替えなどの楽しみが増えるのではないか。

巨勢委員：「地域の人たちから地元の産業や伝統文化などを学びたい」と望む子供が 1 人もいなかったことが残念だった。

合浦委員：大浦校区の子供は、全学年 1 クラスなので、複数のクラスについて全然イメージができないようだ。また、学年ごとの人数は少ない中でも、学年を超えて遊んでいたり、上級生が下級生の面倒をよく見ていたりする実態があるので、「クラスが多い方がいい」とか「人がたくさんいた方が多くの経験ができる」などについては、必ずしもアンケートの数字には表れてこないのではないかと感じた。

大岡委員：私たちの子供時代は 1 学年 4~5 クラスだった時代なので、いつもクラス替えができたが、今は 1 クラスでそのまま持ち上がりという状況であれば、こう答えるしかなかったのかなと思う。

岡教育長：教育委員会としても、今後、各校の校長先生と話し合い、小学校 2 校でいろいろな交流や学び合いなどの活動を活発化していきたいと考える。

アンケートの結果から、統合を進める基準として、小学校は 1 クラス 10 人以下、中学校は 1 クラス 15 人以下という整理をした。この結果を踏まえると、令和 18 年度あたりで大浦中学校 1 年生が 15 人以下となる可能性がある。10 年後位に中学校の統合の時期を迎えるのではないかと事務局では考えている。

大岡委員：令和 32 年度までの太良町全体の推移予測はあるが、それぞれの校区ごとの予測値はあるのか。それ次第では、もう少し統合の時期が早まるのではないかと危惧する。

岡教育長：校区ごとに計算すると母数が小さくなり正確性に欠けてしまうので、太良町全体でしか計算していない。確かに、もっと早くなるかもしれないし、もう少し遅くなるかもしれないが、一応、令和18年度あたりが基準になるのではないかと考える。あくまでも推計値なので、これ以上は何とも言えない。状況としては、中学校の統廃合を考えつつ、地域の拠点としての小学校をさらに盛り立てていき、小学校で種々の交流をしながら、少人数でも効果的な教育を行っていく方向で考えていく必要があると思う。

今後、例えば、5～6年先に、「小学校も一緒に統合を」というような機運が盛り上がりれば再度考えることもあると思うが、現段階では、まず、「中学校が15人以下」というのが学校統合を考える際の基準であり、この基準から今後の方向性を検討していきたいということである。

鶴田委員：保護者の心配事として、学校統合時の場所はどこになるのか、通学方法はどうか、それらが見えない状況の中で、なかなか回答しにくかったと思う。仮に大浦小学校が統合されて無くなってしまうと、大浦地区は寂れてしまう。小学校に子供たちが行き来しているのを見て、地域の住民は元気が出ると思う。小学校はぜひ残してもらいたい。

(2) 視察について

與猶課長：視察先及び日程について説明

- ・白石町や多久市等で6月後半に実施することを確認。

(質問等)

岡委員：視察先について、中学校を統合した学校として白石中学校があるが、1学年5クラスの規模なので、視察しても、2校が統合した場合の見本にはなりにくいと思う。

古川委員：小規模の学校統合の例としては、唐津市の高峰中学校がある。

合浦委員：多久市には義務教育学校があるので、できれば視察してみたいと思う。

岡教育長：できれば半日の日程で考えたいが、遠方であれば1日がかかりになるかもしれない。

岡委員：大きな学校を見てもいいのかなと思う。色々な学校を見て、「やっぱり太良町の今ぐらいの規模がよい」という様に、参考になる点がでてくればいいのではないか。

岡教育長：統合直後の学校以外に、嬉野市には小さくなくても絶対この地域に残したいという小学校もある。太良町にとっても大事な視点なので、教育上の工夫なども知りたい。その他、義務教育学校や小中一貫校などを見て、総合的に判断していく方向がいいのではないか。

色々なご意見をいただいたので、今日の意見を踏まえて再度検討したい。

高松委員長：色々と候補地が出たが、日程と併せて事務局の方にお任せしたいと思う。

與猶課長：できれば6月後半で調整したい。5月に次回検討委員会を開催し、その折に視察先と日程をお知らせする。

4. その他
(質問等)
なし

5. 次回開催日 令和7年5月15日(木) 14:00に決定

終了 15時50分